

あの9.28災害から25年

昭和58年9月28日、台風10号による豪雨によって木曾川は記録的な大出水となり、美濃加茂市や坂祝町などで氾濫し大きな被害をもたらしました。その災害から今年がちょうど25年にあたります。悲惨な災害を繰り返さないために、ここでは特に被害の大きかった美濃加茂市の当時の様子を振り返ってみたいと思います。

一晩で泥沼化した美濃加茂の市街地

台風10号により、木曾川中流域には300mmを超える大雨が降りました。この大雨によって木曾川の水位が上昇、ついには氾濫し、美濃加茂市今渡ダム下流約7.8km間で浸水被害が発生し、特にJR美濃太田駅の南側が広範囲にわたって浸水しました。

この災害により、**死者・行方不明者4名、4,588戸も**の家屋が浸水被害を受けました。

浸水は最も深い地区では4m以上にもなり、2階屋根裏までも水没しました。美濃加茂市の市街地は、一晩にして「**廃墟の町**」のような様相を呈しました。



当時の浸水範囲を示した図面



浸水する家屋



日本ライン下りの船で救出される住民



美濃加茂市役所1階



家財が流出し
廃墟と化した町

被災写真出典：「忘れ得ぬ9.28災害 災害誌(美濃加茂市)」より

二度とあの惨劇を繰り返さないように…

この災害を契機として、「激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）」、「緊急改修計画」として美濃加茂市から坂祝町にかけて木曾川の築堤や護岸工事などが行われました。これらの事業により、弱小堤防だったこの地区の堤防は強化され、大きな被害を被った美濃加茂市も、現在では中濃地域有数の商業都市として発展しており、災害を受けた面影は見当たりません。

しかし、現在でも9.28洪水と同じ規模の洪水が発生した場合、再度被害が発生する恐れがあります。9.28洪水を安全に流下させるためには、丸山ダムの洪水調節機能を強化させる、「**新丸山ダム**」の建設が必要です。



激特事業により完成した美濃加茂市右岸堤防

9.28災害を忘れないために…

美濃加茂市内には災害時の水位を示した「表示板」や「標柱」がたくさん残されています。

右の写真は、市立太田第一保育園の外壁に残された水位表示板です。



水位を示した「表示板」